

友の会 会報

第58号

令和7年3月31日発行

編集・発行／愛媛県歴史文化博物館友の会

〒797-8511 西予市宇和町卯之町4丁目11番地2 TEL.0894-62-6222

研修旅行

徳島城を見る——徳島城（徳島城博物館）

11月21日（木）に令和6年度の研修旅行を実施しました。本年度は徳島県の徳島城および徳島城博物館を訪れました。当日は天気に恵まれた中、12名の方にご参加いただきました。歴博からは井上学芸課長、松井学芸員、事務局原崎が参加しました。

初めに徳島城博物館を訪れました。同博物館では特別展「松浦武四郎の遍路—北海道人、四国を旅する—」において歴博所蔵の「松山城下図屏風」が県外初出品されるといふことで、その縁もあり今回の旅の目的地としました。同博物館では岡本佑弥学芸員に解説をしていただきながら特別展を中心に観覧しました。武四郎は江戸期に蝦夷地を詳細に調査し、明治

維新後には「北海道の名付け親」と称された人物です。幕末には対ロシア通として信頼され、徳島藩13代藩主の蜂須賀斉裕



徳島城博物館にて

維新後には「北海道の名付け親」と称された人物です。幕末には対ロシア通として信頼され、徳島藩13代藩主の蜂須賀斉裕

や宇和島藩と関わりがあったとのことでした。

また全国を歩いて旅をした「旅の巨人」としても知られ、青年期には四国遍路を行っています。これに関する展示で「松山城下図屏風」の展示があり、井上学芸課長より見所の解説がありました。

展示全体を通して岡本学芸員からとても詳細でわかりやすい解説をしていただき、皆さん熱心に展示を観覧していました。個人的には、武四郎のアイヌに対する姿勢やそれに基づく深い造詣が大変興味深く感じられました。

続いて岡本学芸員と共に徳島城跡を散策しました。城跡を東側から登りはじめ、東二の丸から見学しました。岡本学芸員の解説によると、徳島城の天守はこの東二の丸にあったとのこと、一般的に城の天守は本丸に作られることが多いですが、徳島城は豊臣秀吉から紀伊水道を臨む位置に築城するよう指示されて築城していることから、その紀伊水道を見渡せる東側に天守を設けたのではないかと推察することでした。東二の丸から本丸へ登ると、徳島城のもう一つの見どころである石垣が現れます。こ

このほかにも随所で岡本学芸員から詳しい解説をしていただきながら徳島城を散策し、最後に博物館に隣接する旧徳島城表御殿庭園を見学し、帰路につきました。

今回の行程は移動距離が長かったため見学時間を十分に取ることにできませんでしたが、岡本学芸員に非常に丁寧かつ興味深い解説をしていただき、短い時間ながらも大変中身の濃い内容となりました。参加者の方からもこうした意見を多くいただき、皆さん楽しんでいただけたご様子でした。

長い一日となりましたが、皆さんお疲れさまでした。



徳島城跡石垣の解説

事務局から

令和7年度の友の会総会を5月下旬から6月中旬の間で開催するよう準備を進めております。会員の方で友の会の活動内容についてのご意見、ご要望のある方は事務局へお寄せください。また、歴史・文化にかかわること、会員同士の交流の話等々の原稿も随時募集しています。

鬼北・松野町の歴史と文化

— 国史跡等妙寺旧境内と芝不器男記念館をめぐる



等妙寺旧境内展望台にて

本年度第2回目となる現地学習会は1月13日(月・祝)、鬼北町、松野町を訪れました。週末に降った雪の影響が心配されましたが、当日は寒いながらも好天候のうちに開催することができました。参加者14名、歴博からは松井館長、福田学芸員、三浦学芸員、事務局原崎が参加しました。

まず初めに奈良山等妙寺歴史交流館を訪れました。こちらは令和6年9月21日にオープンした国史跡等妙寺旧境内のガイダンス施設で、等妙寺旧境内の発掘調査成果などの展示が行われています。はじめにホールで解説映像を鑑賞し、鬼北町教育委員会の幡上氏より解説をしていただきながら展示を見学しました。等妙寺旧境内は平成の初めごろより発掘調査が始まり、平成20年に国史跡に指定されたとのことでした。

つづいて旧境内の散策に向かいました。史跡内は遊歩道としてきれいに整備されており、ウォーキングのコースとしてもとてもいい場所だと感じました。頂上の展望台を目指して散策し、展望台から鬼北町を一望した後に等妙寺の中核部である如意頭院跡を巡りました。道中、発掘された遺構が各所にあり、その都度幡上氏に解説をしていただきました。宗教施設の遺構ということでは難解なイメージがありましたが、とてもわかりやすい説明で、中世の等妙寺の姿についての理解が深まりました。



松丸の町並み

参加者の方も積極的に質問をするなど、理解を深めている様子でした。また参加者の方の中にはまだ整備の進んでいない段階から何度も訪れている方もおり、整備された様子を感慨深そうに見ておられました。

氏に解説していただきながら散策しました。亀澤氏によると、松丸は江戸時代に松丸街道として発展し、幕末から明治期には商工業が大きく発達したとのことでした。また江戸時代ごろの道筋と現在の道筋との違いや建物についての詳しい解説がありました。



芝不器男記念館

続いて芝不器男記念館では、ご自身も俳人である川嶋氏のご案内で観覧しました。記念館は不器男の生家を利用しており、直筆の短冊など貴重な資料が展示されていました。不器男の短いながらも中身の濃い生涯について、川嶋氏から解説して頂き、また俳人ならではの視点からの解説もあって、参加者の方も熱心に聞いておられました。

松野町での見学を終えて帰路につきました。今回の現地学習会は半日の日程だったため若干駆け足になりましたが、各見学先では専門性が高くもわかりやすい解説をしていただき、参加者の方々もこの点を喜ばれていました。皆様お疲れさまでした。

クラブ活動

古文書クラブ現地学習会

古文書クラブでは3月13日(木)、現地学習会として大洲市を訪れました。参加者は5名、歴博からは山内学芸員、事務局原崎が参加しました。

初めに大洲市立博物館にて同館学芸員の白石尚寛氏に解説していただき、市指定文化財の八幡神社文書を閲覧しました。同文書は同じく市指定無形文化財の「八幡神社の祭礼行事とお成り」の関連文書で、江戸から昭和に至る祭りの変遷が詳細にわかる文書です。白石氏の解説のもと、参加者の方も熱心に読み込んでおられました。

午後は白石氏とともに、江戸時代の絵図を見ながら大洲城下町の散策を行いました。当時の町割りや現在の道筋を比較すると意外と江戸時代の痕跡が残っており、新鮮な感覚で見ることができました。その後、古学堂を訪問し八幡神社宮司の常磐井氏に西日本豪雨での被災からの復興について話を伺いました。

今回は特に多くの古文書を観覧させていただき、クラブ活動として大変有意義な学習会となりました。お忙しい中ご準備いただき、当日もご対応いただきました白石様には心からお礼申し上げます。



明浜ウォークキング



狩浜の港にて

井館長、松井学芸員、事務局原崎が参加しました。また今回のヘルシー歴史ウォークでは「かりとりもさくの会」の佐藤文明氏にガイドをしていただき、狩浜の町を散策しました。

狩江地域づくり活動センターを出発し、初めに段畑と狩浜地域を見渡せるところまで登りました。佐藤氏の解説では、狩浜地域の段畑の特徴として、この地域で取れる石灰岩を使用していることから石垣が全体的に白っぽく見えることが紹介されました。また段畑の耕作物は時代状況に強く影響され、江戸時代のサツマイモから明治・大正期には全国的な養蚕業の発展に伴い桑へ、戦時中の食糧難の時代には再びサツマイモが、そして現代では柑橘類と

本年度のヘルシー歴史ウォークは3月16日(日)、西予市明浜町の狩浜を訪れました。当日の天候はあいにくの雨で参加者は7名、歴博からは松井館長、原崎が参加しました。細い路地を進んでいくと養蚕が盛んだった頃の家屋や蔵などが残っており、一つ一つについて佐藤氏から詳しい説明がありました。ほかにも井戸の跡や水路など生活に根差した施設について、狩浜地域の生活の歴史に結びつけて解説をしていただきました。

狩浜の町並みは知らないと思過ごしてしまふような見所が随所にあり、参加者の方も佐藤氏の解説を熱心に聞きながら散策していただきました。

町並み散策後、帰路につきましました。ウォーク中に雨は止まず少し大変でしたが、佐藤氏の地元生活に根ざした解説に皆さん大変満足されている様子でした。皆様お疲れさまでした。



狩浜の町並み

第2回展示解説会

テーマ展 松山外環状道路空港線開通記念 松山外環状道路と遺跡の調査—松山平野西部の遺跡

2月24日(月・祝)、テーマ展「松山外環状道路空港線開通記念 松山外環状道路と遺跡の調査—松山平野西部の遺跡」の展示解説会を実施しました。前日からの雪の影響もあり参加者は1名、解説は富田学芸員が行いました。

展示は各時代ごとに分けられており、それぞれについて富田学芸員から詳しい解説がありました。参加者も少なかつたため、逐次質疑応答が行われ、結果としてかなり中身の濃い展示解説会となりました。

この日は松山外環状道路空港線が開通してちょうど1年にあたる節目の日でしたが、あいにくの天候により参加者が少なくなってしまうことは残念でした。

今後も展示解説会は積極的に開催していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



第3回展示解説会

特別展 宇和海のくらしと景観

3月9日(日)、特別展「宇和海のくらしと景観」の展示解説会を実施しました。今回は一般の方も参加可能とし、28名の方にご参加いただきました。解説は井上学芸課長、松井学芸員、三浦学芸員が担当しました。

古代・中世の宇和海について松井学芸員より解説があり、宇和海では漁業が盛んだったという文献的裏付けが古代からあったことが説明されました。続いて井上学芸課長より宇和島藩が作成した絵図など近世・近代についての解説がありました。昭和の民俗写真については再び松井学芸員が、最後に文化的景観については三浦学芸員より解説がありました。

今回は一般の方も多く参加していただき、友の会の活動を紹介するよい機会にもなりました。今後もこうした機会を設けていきたいと思ひます。



友の会会員募集



令和6年度研修旅行

愛媛県歴史文化博物館友の会では、令和7年度会員への更新を行うとともに、新規会員を募集しています。現会員の皆様におかれましては、引き続きご継続いただきますとともに、周囲に入会を希望される方がおられましたら是非お勧めいただきますようお願いいたします。

会員特典

- ①常設展と特別展が無料で観覧できます。
・家族会員様は同居の家族なら何人でも無料です。
・賛助会員様は1度に10名までご利用いただけます。
- ②会員様限定のイベントに参加できます。
研修旅行「年1回」
県外の史跡や博物館をバスでめぐります。
現地学習会「年1〜2回」
県内の史跡や博物館を訪ねます。
ヘルシー歴史ウォーク「年1回」
身近な歴史スポットをハイキング。
展示解説会
企画展の見どころを学芸員が解説。
クラブ活動
民俗・土器・キ・裂織・古文書の4つのクラブが活動中
- ③「歴博だより」などの博物館広報物を自宅へお届けします。
- ④当館主催のワークショップの材料費が割引となります。
- ⑤博物館刊行物が割引価格で購入できます。

※会員特典の内容は、6月に開催予定の総会にて決定いたします。
※特典を受けるには、会員証の提示が必要です。

会員種別・会費

会員種別	年会費
個人会員(小中学生)	500円
個人会員(高校生)	1,500円
個人会員(一般)	3,000円
家族会員	4,000円
賛助会員	10,000円 (1口)

ご継続手続き

会費をそえて博物館総合受付へ直接申し込むか、郵便局備え付けの振替用紙に、住所・氏名・電話番号・会員区分などの必要事項をご記入のうえ、最寄りの郵便局で左記の口座に会費をお振り込みください。後日会員証を送付いたします。

【口座番号】

01610・045873

問い合わせ先

愛媛県歴史文化博物館
友の会事務局

〒797-8511
西予市宇和町卯之町4-11-2
TEL...0894-621622
FAX...0894-621661

新規刊行物のご紹介

本年度より資料目録・研究紀要は当館ホームページでの公開となりました。冊子での販売はございませんのでご了承ください。なお既刊分については引き続き友の会会員は割引価格でご購入いただけます。

資料目録 第33集 「宇和島鉄道関係資料目録」

明治20年代に計画された宇和島鉄道は、日清・日露戦争の経済的影響により一度は解散しましたが、明治43年の「軽便鉄道法」の公布を受けて再興され、大正3年に宇和島～近永間が、続いて同12年近永～吉野間が開通しました。本目録では近永開通までの資料を中心に写真、翻刻、解説、目録を収録しています。

研究紀要 第30号

- ・中島華鳳の写生帳に見る愛媛の風景
 - ・資料紹介 日野富三郎関係資料について―牧野富太郎と日野富三郎の交流を中心として―
 - ・調査報告 大井八幡大神社のオトウ
 - ・資料紹介 (伝) 西予市宇和町坂戸古墳群出土金属製品
 - ・実施報告 伊予市堂ヶ谷経塚出土金銅経筒の保存修理について
- 甲斐 未希子
安永 純子
三浦 彩
石貫 弘泰・富田 尚夫
亀井 英希・初村 武寛・山岡 奈美恵・山口 繁生

令和6年度
賛助会員

宇和史談会、愛媛県歴史文化博物館 親睦会、えひめバス旅行有限会社、上甲耕三、西予市商工会、父田翔一、山本浩二、渡辺均（敬称略、五十音順）